

テーマ【昆虫博物館作り】

【テーマの設定理由】

子どもたちの中で虫に対する興味・関心があり、普段から園庭や散歩先で虫探しをしたり、捕まえた虫について図鑑で調べたりする姿があった。

年長児が、カブトムシとクワガタムシを自宅から持参し、クラスで飼育することにした。そこからさらに興味が広がり、「昆虫博物館を作りたい」との声が上がり、昆虫博物館作りが始まった。

【活動スケジュール】

8月頃から少しずつ作り始める。主に朝の時間に活動する。子どもたち同士でイメージを共有しながら、必要な物は何か、考えながら進める。当初は2026年1月オープンを目指し進めていたが、2月オープンとなる。

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

LaQ、画用紙、段ボール、絵の具、色鉛筆、丸シール、段ボールカッター、割り箸、ボンド、カラーペン、色付きのビニール袋、マスキングテープ、スズランテープ、ポスカ、折り紙、ストロー、記録用PC

室内環境として、虫に関するポスター、昆虫図鑑

子どもたちが「次にやりたい」と思ったことをすぐに実現できるように、予想される姿から必要な道具をあらかじめ部屋に準備しておくことも意識した。

【活動の内容】

まずは虫と飼育ケースを作り、その後看板やほかの虫をどんどん作っていく。蜘蛛の巣、蜂、蜂の巣など、子どもたちの中で「虫といえば…」と連想されるものを作り上げていく。主に発案者である年長男児がリーダーとなり、その子のイメージをもとに協力して作っていく。

【活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり】

・子どもたちの中で、「虫といえば蜂」というイメージがあり、LaQで蜂を作る。「蜂といえば蜂の巣」と連想し、それらを作っていく。



蜂の巣はこういう形だよ
と言いながら、紙を手で慎重に折って、
ボンドで貼っていく。

・昆虫博物館の看板を作ろう！という話になり、自分たちで文字を書いていく。下書きをしてからマッキーで塗る。ボランティアに来ていた卒園児の小学生から、文字を教えてもらって書いていった。



・飼育ケースには昆虫ゼリーが必要ではないか？という話になり、部屋にある物を使って昆虫ゼリーを作った。



・実際の蜘蛛の巣のイメージを持ちながら、蜘蛛の巣編みをした。糸と糸が等間隔で張られていることを意識して作っていった。



・実際に博物館がオープンしたときの様子
「案内係」「受付係」「お土産屋さん係」などの役割分担をしながら、お客さんを呼び込んでいた。遊びを重ねる中で、「ユニフォームがあった方がいいのでは？」「博物館の中にレストランを作ろう」など、子どもたちからさまざまなアイデアが生まれ、それをすぐに遊びに取り入れる姿が見られた。また、「なずな組（二歳児クラス）の子たちも招待しよう！」という提案が出て、手作りの招待状を作って届けに行った。招待日当日は、年下の子が来ることを理解し、優しくゆっくり説明したり、「お土産も持って帰っていいからね」と声を掛けたりするなど、思いやりをもって関わる姿が見られた。

【振り返りによって得た先生の気づき】

子どもたちは、それぞれが得意な分野を生かしながら博物館づくりに参加していた。年長児の中には「どんな博物館にしたいか」という明確なイメージを持つ子もおり、その思いを子ども同士で伝え合い、時には大人も加わってイメージを共有しながら準備を進めていった。昆虫博物館のオープンという共通の目標に向かって、みんなで協力しながら取り組むことの楽しさや達成感を実感する姿が見られた。